

東近江女性防火クラブ 全体研修



会場（東近江行政組合消防本部）



山田会長あいさつ



予防課長あいさつ

家庭内DIG

～地震がきてもわが家で暮らす方法～



令和元年9月29日（日）9時30分から東近江行政組合消防本部において、東近江女性防火クラブのクラブ員を対象に全体研修を開催したところ、様々な地域から113名のクラブ員に参加いただきました。

研修内容は災害時に自宅で命を落とさない、ケガをしないためにはどうすればよいかなどを考える「家庭内DIG」を実施し、女性の視点で災害時の対応策などを考えグループで意見交換していただき、盛況のうちに終了いたしました。



地震が起きてても

わが家で暮らす方法

家具類の転倒防止

地震のとき、家具の転倒や棚からの物の落下、ガラスの破片などで、たくさんの方が死亡したり、ケガをしています。タンスや食器棚などの家具のほか、冷蔵庫やテレビなどの電化製品にも転倒や落下防止対策が必要です。窓ガラス等には飛散防止対策をしてください。また、寝室には、家具を置かない、家具を置く場合には、置く場所を工夫するなど安全に対する備えが必要です。

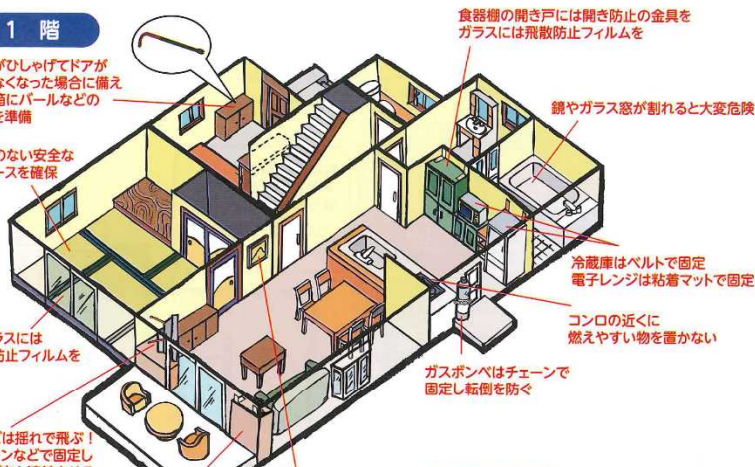
1 階

建物がひしゃげてドアが開かなくなった場合に備え、下駄箱にバールなどの工具を準備

家具のない安全なスペースを確保

窓ガラスには飛散防止フィルムを

テレビは揺れて飛ぶ！チェーンなどで固定しテレビ台と連結させる



2 階

家具の上にガラス製品や重い物を置かない

壁掛け時計や絵画は針金やチェーンなどで固定

ピアノはキャスターが動かないように固定

重量のある家具はベッドから離して



これだけ準備しても、家が倒壊してしまったら…。やっぱり耐震化が大切です。

自宅が昭和56年5月31日以前に建てられた木造住宅の場合は、まず耐震診断を受けてみましょう！耐震診断は無料で受けることができます。また、耐震補強工事には、県や市から補助金が出ます。詳しいことは、市の建築の窓口にお問い合わせください。

CHECK

右のステップでわが家の危険度をチェックしてみよう！！

STEP1 ~平面図を描く~

下の枠内に自宅の平面図を描いてみよう。

STEP2 ~元栓等の位置を確認~

電気のブレーカー、ガスの元栓やマイコンメーター、住宅用火災警報器など防火のポイントになる場所を確認しよう。

STEP3 ~危険な場所を探す~

右のページを参考に、自宅の危険な場所をチェックしてみよう。

過去の災害では、停電回復後の通電火災が多数発生しています。災害発生後、避難する場合は必ずブレーカーを落としてから避難しましょう。ガスの元栓も忘れずに。

STEP4 ~避難経路の確認~

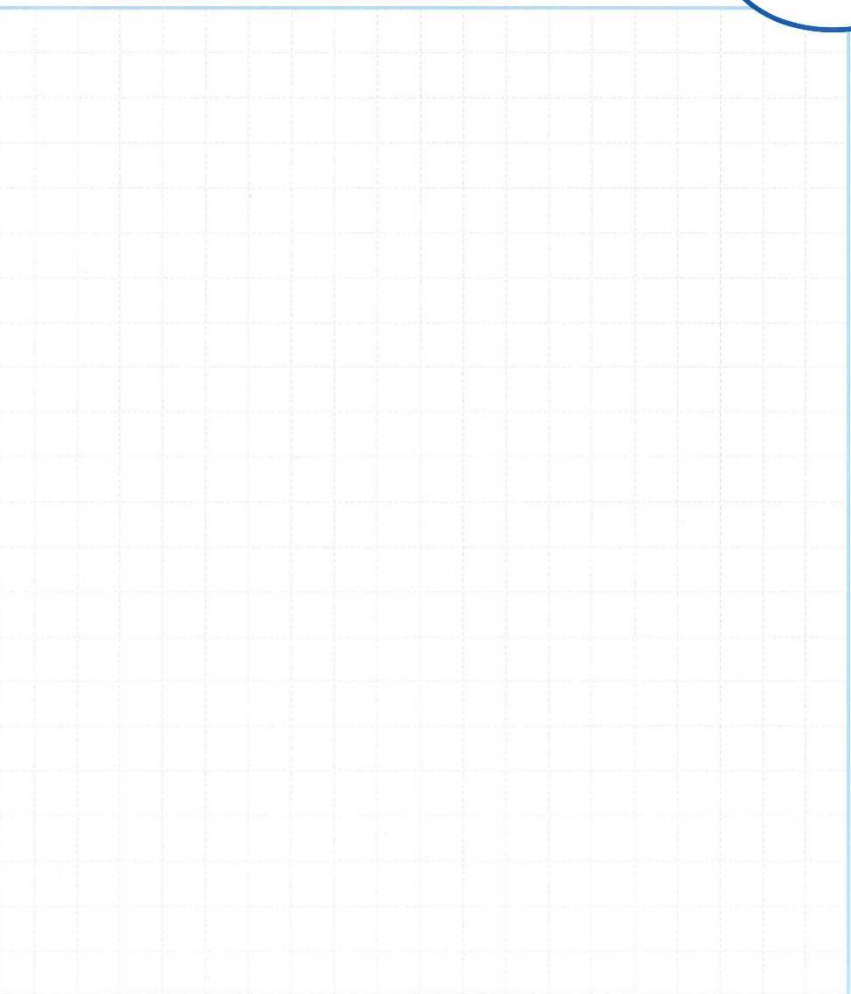
地震発生後の家の中は、倒れた家具や割れたガラスなどで屋外に出るのは至難の業です。普段通り各部屋から屋外への避難経路を考えてみよう。

STEP5 ~震災後の生活を考える~

地震発生後もわが家で生活するため、次のことを考えておきましょう。

- ☆どの部屋で生活するか？
- ☆食料、飲料水はどうする？
- ☆トイレの問題は？
- ☆寒さ対策は？

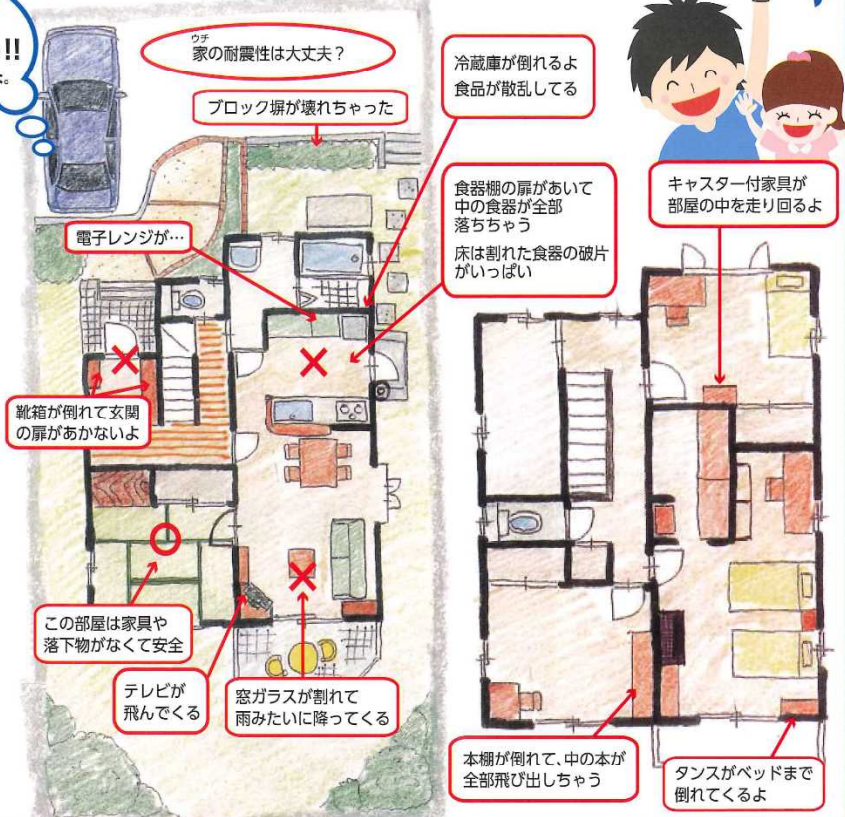
こんな感じでまとめてみよう！！あぶない場所がよくわかるよ。



DIGをしてみると、よくわかる

地震が起きた時、わが家のここが危険！

準備しておけば安心だね。



家の中や周辺の危険箇所

- **リビング・ダイニング**
テレビ=飛んでくる
本棚=転倒して、中の本が全部飛び出す
ピアノ=部屋の中を走り回る
窓=割れて部屋の中に破片が散乱する
掛時計=落ちてガラスの部分が割れる
照明=落ちて、蛍光灯が割れる
- **キッチン**
食器棚=扉が開いて中の食器が落ち、床に割れた食器が散乱する
冷蔵庫=転倒して、中の物が散乱する
電子レンジ=飛んでくる
- **寝室**
タンスやドレッサーなどの家具が転倒する
- **子供部屋**
学習机=上の棚が倒れる
本棚=転倒して中の本が全部飛び出す
キャスター付家具=部屋の中を走り回る
- **屋外**
ブロック塀=倒れて粉々になる
物置=転倒する
- **集合住宅の共用部分**
エレベーター=停止する

家庭内DIG

地震がきてても

わが家で暮らす方法

方法

DIG 『DIG』って何??

「DIG」とは、大きな地図を回しながら、参加者全員で災害時の対応策などを考える訓練のことで、Disaster Imagination Game の頭文字をとって「DIG (ディグ)」と名付けられました。英語の動詞「dig」には、「掘り起こす、探求する、理解する」といった意味があります。「DIG」という名称には「防災意識を掘り起こそう」「地域を探求しよう」「災害を理解しよう」といった、この訓練のねらいが込められています。

「これまで起こった地震では、家庭の倒壊のほか、家具の転倒や落下物、ガラスの破片などにより、多くの方がケガをし、命を落とされました。今後30年以内に70%の確率で発生すると予測される南海トラフ地震においても、対策を取らなければ大きな被害があることは明らかです。大規模地震が起きた時、自宅で命を落とさないケガをしないためには、いざいざ、考えてみましょう。また、過去の災害では、多くの被災者が避難所押し寄せ、避難所での生活は大変なものでした。そんな避難生活を少しでも引き続き自宅での生活したいものです。地震の後、電気・ガス・水道が止まっている不自由な中、いかにして自宅での生活していくか、そのための生活に必要な準備をしておくべきではないか、この家庭内DIGを使って家族で話し合いをしてみましょう。」

東近江行政組合消防本部